日研生E-だより　第16号

筑波大学　日本語・日本文化学類

2022 年 1 月 11 日

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のワクチン接種が進む中で、少しずつですが、日常生活が取り戻されつつあります。修了生の皆さんとご家族・ご友人はいかがお過ごしでしょうか？2020 年度の日研生修了式は、日本の緊急事態宣言下のため、「筑波大学新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応指針」に従って、最小人数で無事に開催されました。

『日研生 E-だより 16 号』をお届けします。前号につづき、今号も「修了生は今」という特別企画の第 3 弾で、日本や世界中で活躍している日研生修了生からのメッセージを紹介します。

≪2020 年度日本語・日本文化研修留学生の修了式≫

左から：　谷口先生（学類長）、ユンさん（韓国）、ゴーヴィンディさん（スリランカ）、アシタさん（ベトナム）、今田先生（副担任教員）

2021 年度日研生の出身国は次の通りです。

出身国名	人数
中国	1 名
ブラジル	1 名
韓国	1 名

2021 年 12 月 10 日
新型コロナウイルス感染症の影響で、
来日が延期されていた日研生の皆さんは
関連教職員との初顔合わせ。　→

■ 2020年度担任の金仁和先生と副担任の今田水穂先生からメッセージをいただきました！

金仁和先生

2020 年度日本語・日本文化研修生プログラムの担任を務めさせていただきました、金仁和（キムインファ）です。ベトナムからのアシタさん、スリランカらのゴーヴィンディさん、韓国からのユンさん、お元気でしょうか。

訪日が遅れてオンラインで実施したオリエンテーションから大変だったですね。様々なオンライン用ツールに慣れるまで苦労しましたね。幸いに 10 月中には皆さんは訪日出来ましたが、ほとんどの授業や行事がオンラインで実施されたので、少しがっかりでしたでしょう。「日本語・日本文化実験実習」もオンラインで実施しながら、日本語・日本文化研修生プログラムとしての意義や研修効果について何回も自問したのも事実です。

自ら各種イベントや行事に探して積極的に参加している皆さんの頑張る様子で、状況内で最善を尽そうと力をいただきました。皆さんは修了のための単位履修、修了レポートの完成、その上、自分なりに工夫した留学生活を楽しんでいました。私も今回の日本語・日本文化研修留学生プログラムの意義や研修効果に自負できるようになりました。

皆さんに感謝と拍手を！

今田水穂先生

日研生のみなさん、元気にお過ごしですか。副担任をしていた今田です。

2020 年の日研生は、COVID-19 の世界的な流行の影響を受けて困難なスタートでした。最初の数ヶ月は日本に渡航ができず、海外からオンラインで授業を受けなければならず、不安や不便があったと思います。日本に着いた後も、多くの授業がオンラインで実施され、また様々な行動の制限が課される中で、期待していた留学生活とのギャップに大変な思いをしたかも知れません。そうした困難な状況の中で勉学に励み、無事に 1 年間のコースを修了したことは、大変立派なことだったと思います。

どのような状況においても、新しいことに挑戦することは皆さんの可能性を開いてくれます。人生は絶え間ないチャンスの連続です。その時々に何を選択するか、何を選択できるかで、20 年後、30 年後の将来が大きく変わってきます。日本での生活、授業で学んだこと、他の学生との交流、修了レポートへの取り組み、これらの経験の全てが、これからのみなさんの生活の中で大きな財産になると信じています。

それでは、みなさんの益々ご活躍を祈っています！

■ 2020年度日研生に聞きました！

2020 年 9 月に修了した日研生 3 名に次の質問をしたところ、全員からお返事をいただきましたのでご紹介します。

1. **あなたが日本/筑波大学で 1 年間日研生として過ごした感想や、心に残る経験・思い出などについて教えてください。**
2. **あなたの帰国後の現在の様子を知らせてください。（近況報告、帰国後に日本での生活を振り返って思うこと、など）。**

グエン ミン ニャット さん（ベトナム出身、ホーチミン市師範大学在籍） NGUYEN, Minh Nhat

1.「自己成長感」を得られた・・・1 年間の留学を終えた感想として、この言葉が一番似合うと思います。

日本に来るまでは家にいるばかりで、「青春なんてこうだろう。」と思っていました。筑波大学での留学機会を頂いた私は、日本語が上達した上で、自分が大きく成長した気がします。あちらこちらを旅行したり、そこの人たちと接したりすることで、私の考え方が変わって、世界が広がりました。

海外に行くこと、一人暮らし、論文作成、一人旅など、全てが私の初めてでした。最初はすこし怖くて震えましたが、担任の金先生、修了レポートを指導してくださった江口先生、そして在学中に出会った皆様のおかげで無事に過ごせました。今でも、振り返るたびに、微笑みが止まらないほど楽しい思い出ばかりです。思い出に残っている事は多くありますが、特に感動したことと言えば、USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）での遊びがすぐ思い浮かびました（笑）。

一年間筑波大学で留学できたことは本当良かったです。特に筑波大学での体験は、私がもう一度日本に戻りたい要因となりました。筑波大学の魅力的なところといえば、2 つ挙げられると思います。まずは授業の質です。授業の内容も教員の教え方も非常に良いと実感しました。次は学習環境です。自然に囲まれた広いキャンパス、研究力の高い大学で、静かで綺麗な景色がいつも見られるというところは勉強するのに、最高ではないでしょうか。また進学する機会があれば、ぜひ筑波大学で勉強したいと思います。

USJ、最高だ！

その他、このようなコロナ禍の影響で急変した世の中で、私は様々なことを体験し、学ぶことができて、本当に貴重な時間であり、誠にありがたく存じます。渡日の時から帰国まで、いろいろと大変でしたが、皆様のおかげで、留学をやり遂げた、という気持ちで胸いっぱいです。楽しかったこともあり、大変なこともあった一年間は矢のように早く経ちました。平凡な自分にとっては激動の一年間でした。筑波大学で勉強し、生活をしていた時間は私のこれまでの人生の中で一番幸せな時間だと言っても過言ではないかもしれません。これから、留学で培った様々な能力を活かし、更なるグローバル社会の中で活躍していきたいと思っています。また、留学期間中、まだ行っていないところや、出来なかった事はもちろんありますが、それらが「残念なこと」と思わず、日本に戻る動機にしたいと思います。

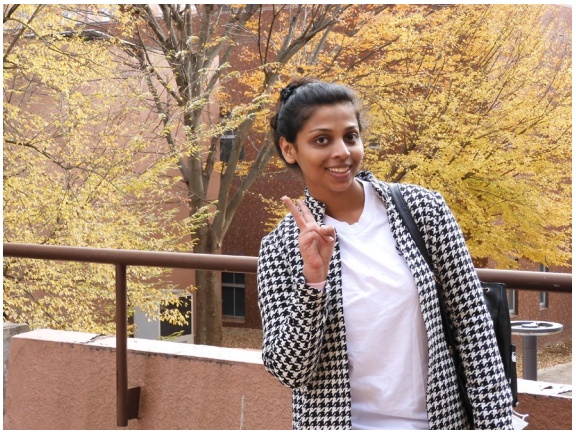
冬晴れの日に、校内の植物見本園を散策しました。

2. ベトナムに帰ってから、数ヶ月が経ちました。コロナ時代がなかなか終わらないので、元の生活に戻ったとまで言えないですが、家族との生活に戻れたことが何よりだと思います。今、大学 4 年生で、インターンシップの準備をしています。将来、また日本に、そして筑波大学に行きたいと思っています。

みなさん、どうもありがとうございました。

レールワラ ロクゲー ギトマー ゴーヴィンディ さん（スリランカ出身、ケラニア大学在籍）

LELWALA LOKUGE, Githma Govindi



1. 私は日本の成田空港に到着してから、筑波大学に着くまでの間に、様々な経験をしました。まず、隔離待機期間中は、14 日間もずっとホテルの中で過ごしたので、寂しかったです。でも、これから一緒に筑波大学で勉強する日研生のみなさんに会えて安心しました。隔離待機期間中に、日本料理を初めて食べましたが、最初、慣れることが難しかったです。つくばに到着した日は一生忘れられません。先生方や事務のみなさんはすごく仲良くしてくださって、チューターもいろいろなお世話をしてくださいました。お陰さまで、大学の生活に慣れて、すごく楽しかったです。

自転車に乗って大学を通うのは、日本に来て初めてで、それは感動的な経験でした。秋学期の授業はほとんどオンラインで実施されたので、少し寂しかったです。でも、授業のことや日本のことについて、先生といろいろ話すことができて、とても素晴らしかったです。留学中、少しチャレンジしたのは修了レポートです。指導教員の先生や学術チューターのお陰で成功しました。

私は、日本に忘れられない料理があります。まず、スリランカ人は辛い料理が好きです。大学の近くにあるインドレストランのカレーと常総市にあるスリランカレストランのカレーはとても美味しくて、忘れられません。それから、つくばに到着した最初の日に、チューターとその友達と一緒にラーメンを食べに行ったことは今でも心に残っています。そのラーメンの美味しさと香りは一生忘れられません。お箸で食べることは最初難しかったですが、それもだんだん慣れてきました。

自転車に乗って楽しんだつくば市や筑波大学のこと、そしてそこで出会った方々のことをこれからも一生忘れられません。

大変お世話になった生活チューターの元谷真綾さん。

2. 帰国した日はワクチン接種後 3 日目でもあり、少し疲れていましたが、日本のことや大学のことを思い出すと、心がワクワクして、疲れが少し和らぎました。現在、所属している大学の勉強と卒業論文執筆に励んでいます。大学を卒業したら日本の企業で勤めるつもりです。ぜひ皆様とまたいつか会いたいと思っています。

ユン ジユン さん（韓国出身、釜山外国語大学在籍） YUN, Jeeyun

1. 初めての海外での一人暮らしは、思った以上にとても大変でした。私は韓国でも一人で暮らしたことがあり、何となく大丈夫だろうと思っていましたが、やっぱり韓国と日本とでは、違うと感じることがたくさんありました。最も記憶に残っているのは、自転車と地震のことです。韓国で買い物をする時には、歩いていくかバスでいくか、もしくはネット通販を利用するか、の二択でしたが、つくばでは自転車で行くとの一択だけです。自転車を買ったばかりの時に、自転車に乗って前に進むことは不安でしたが、そのうちどんどん上手になっていくのが楽しかったです。そして地震です。私は日本に来て初めて地震を経験しました。地震だけは帰国するまでになっても、慣れませんでした。その他、ハンコ、FAX 文化に戸惑ったことや、送金手数料、年金やインフラの利用料金の高さに驚きました。水道費が一万円以上請求されて問い合わせたことは、今になっても時々思い出します。しかし、以前日本に旅行に来た時と比べて、経験できなかったことをたくさん経験できたし、様々な場面で日本語を話せる機会も増えました。実際に日本で生活をしてみて、とてもいい勉強になり、留学した甲斐があると感じる毎日でした。

同期の日研生のみなさんと参加した校外研修。

日研生として採用されたことはとても楽しみにしていましたが、留学期間中に、新型コロナウイルス感染症拡大のために、いろいろと大変な経験をしました。まず、9 月末を予定していた渡日は 10 月末に押され、14 日間の隔離待機期間も要されました。そして、様々なイベントがキャンセルまたはオンライン実施に変更され、他の日研生とも顔を合わせることは少なかったです。プログラムの前半は大学の授業がほぼ全てがオンラインになり、特に総合日本語の授業では学生が私一人だけの授業もありました。一ノ矢宿舎にも人がいなくて・・・正直憂鬱な時期もありました。その中で、むしろ良かった点・・・と言えば、学生が私一人だけの授業では、たくさん日本語が話せたこと、そして、仲良くなれた友達とは、このご時世でなかったら、会えていなかったかもしれないことです。プログラムの後半は、校外授業や対面授業が少しずつあり、少しですが、人との交流ができました。

このような「大変な」留学生活の中でも楽しく過ごせたのは、担任の金先生と副担任の今田先生、生活チューターの竹内さんと学術チューターのイムさん、そして事務室のみなさんのサポートがあったからだと思います。本当にありがとうございました。特に金先生は、修了レポート作成に際して、未熟な私にはいろいろとご指導くださいまして、誠にありがとうございました。そして、同級生のアシタさんとゴーヴィンディさん、ありがとうございました。これからも遠くにいながら、みなさんのことを応援しています。

2. 私は今 4 年生です。アルバイトや英語の勉強などもしています。それから、実は日本にいる時から鼻炎が酷くなって、先日やっと病院に行きました。なんと「花粉症」と診断されました。花粉の多い日本で過ごした一年間は、治療どころか薬すら飲まなかったせいか、鼻の中がボロボロだと医師に言われました。当分の間に、治療に専念したいと思います。将来、また日本に行く機会があれば、しっかりと花粉対策をしていきたいと思います。

2022 年は、コロナ禍が収まるといいですね。みなさん、いろいろと本当にありがとうございました。

休日に訪れた埼玉県の川越氷川神社

■ 修了生は今

日本や世界中で活躍している 2008 年度と 2015 年度の日研生修了生 2 名から、メッセージが届きました。筑波大学日研生修了生は、様々な形で日本と本国、そして世界との架け橋になっていますよ！そして、このような時だからこそ、ぜひ言葉の力で、世界中の日研生修了生を励ますことができたらと願っています。

ビダヤトゥン　ヌズル　ユニ　アストゥティ（BIDAYATUN, Nuzul Yuni Astuti）さん（インドネシア出身、当時スラバヤ大学在籍、2008 年度日研生 ／ 担任：砂川有里子先生、副担任：朴宣美先生）

Apa kabar！（アパ　カバール！インドネシア語では「お元気ですか？」の意味です。）私はビダと申します。2008 年度に日研生として筑波大学で 1 年間勉強しました。筑波大学の日研生になってよかったと思うのは少なくとも理由が二つあります。一つ目は生活支援の学類生チューターと論文指導の大学院生チューターという日研生のサポートシステムです。困ったことがあった時、チューターに相談できたおかげで、私は学生生活、そして日本での日常生活を楽しく送ることができました。二つ目は、日研生コースで決まった科目以外の授業も受けることができることです。留学生専用の科目や日日で開講する講義だけでなく、普通の日本人学生の授業も受講させていただきました。未だに印象に残っていますが、私が受けた「日本地理学」という授業の先生は、とてもやさしくて、留学生である私に気を使って、授業中、難しい漢字にフリガナまでわざわざ書いてくださいました。おかげで、私は授業がよく理解できました。

振り返れば、今ある私はこの日本留学経験から大きく影響を受けた気がします。子供の時、旅行といえば、家族と一緒に親戚の家へ訪問することや修学旅行ぐらいでした。日研生時代、言語はもちろん、文化などたくさん学びました。また、せっかく日本に来たから、教科書やテレビでしか見たことがなかった日本の有名なところに行こうと思って日本中を旅しました。道が分からない時は誰かに聞いたり、学校で聞いたことがなかった場所の名前の漢字の読み方を学んだり、色々な方々と出会ったりしました。出かけるたびに新しい経験ができて、旅行も勉強になるのだ、と気づき、ワクワクしました。

ジャワ島東部にある Gunung Bromo（プロモ山）を背景に（2021 年 10 月現在）。

帰国後、インドネシアにある日系の旅行会社に入社しました。日本人のお客様の対応がメインの仕事ですので、日本語を生かすことができる上、ちょこちょこ出張や個人旅行をすることもできました。また、仲間や上司が良い方々で、もっと良い自分を目指していくように、よく励ましてくれました。私にとっては、まさに夢の仕事でした。しかし、仕事をしていくうちに、観光業は、経済成長や自然災害、政治情勢など多くの状況にかかわるため、敏感な業界でもあることを実感しました。持続可能な観光の重要さを認識するようになった私は詳しく勉強したくなり、仕事を辞めて大学院に進学する希望を上司に話しました。最初、もう一度考え直すようにと言われました。しかし、不幸なことに、その数ヶ月後、新型コロナウイルス感染症が発生し、多くの店舗が閉店になり、私が働いた会社も社員を解雇せざるを得なくなりました。とても残念なことではありますが、それが切っ掛けで退職して大学院に行く決心ができました。これから、観光業界で得られた経験をもとに、コロナ禍終息後の観光業界がどのように持続可能な方向へ進めばよいか、大学院で研究していきたいと思っています。これからもどうなるか不安がたくさんあると思いますが、頑張ります。

通勤途中で見ていた観光町 Labuanbajo（ラブアンバジョ）の景色

今まで仕事を忙しくしている皆様、コロナ禍が再び自分を見つける切っ掛けになるかもしれません。新しい技術を学ぶこと、家族との時間を増やすこと、ずっと前からやりたかったがなかなか時間がなくてできないこと、もしかしたら今度こそ達成できるかもしれません。ぜひ前を向いて胸張って頑張っていきましょう。

ゴ ティ ミ ハイン（NGO, Thi My Hanh） さん （ベトナム出身、当時ハノイ国家外国語大学在籍、2015 年度日研生 ／ 担任：清登典子先生、副担任：小野正樹先生）

ハインです（2021 年現在）。

みなさん、お元気ですか？Ngo Thi My Hanh（ゴ ティ ミ ハイン）と申します。2015 年 9 月に日研生として初めて来日し、筑波大学の日本語・日本文化学類で1年間勉強させていただきました。筑波大学で勉強した1年間で一番印象に残っていることは、やはり「交流」したことです。勉強はもちろんですが、実際に日本文化が体験できるし、そして日本人の友達を初め、世界中の友達もできました。当時知り合った友達とは今でも連絡を取り合って、お互いの状況を話し合い、一緒に喜びをシェアしています。そして、日本中を旅したことも楽しかったです。当時、休みの間によくクラスメートと旅行しました。旅先で美味しい和食を食べたり、着物や浴衣などを着てみたり、有名な観光地を見学したりして、本に書かれていない日本を自分の目で見ることが出来ました。本当にいい思い出になりました。今振り返ると、その1年間があるからこそ、現在の私があると言えるぐらい大切な1年間でした。

日研生コースを修了した後、母国のベトナムのジョブフェアなどで、九州に本社がある日本のIT企業から内定をいただき、大学を卒業してから仕事するためにまた日本に来ました。会社はベトナムに支社があるため、私の仕事は日本の本社とベトナムの支社との連絡役です。日日で学んだ知識、体験した日本文化は非常に役に立っています。プライベートでは、ベトナムで知り合った方と結婚してから来日し、去年、子供が生まれて、今は1歳で元気に保育園に通っています。子育てや仕事と家庭と両立して、頑張っています。いつか筑波大学に戻って、このいい思い出となったところを主人と子供に紹介したいと思っています。

初めて日本に来た日研生のみなさんは日本での生活に慣れないことが多いかと思います。慣れるまでは少し時間が必要なので、焦らずに少しずつ進んでいけばいいと思います。ホームシックで寂しく感じている人もいると思いますが、周りに先生方、友達がいますので、あなたは一人ではないですよ。1年は長く感じる時もありますが、あっという間に終わってしまいますので、楽しく過ごしましょう。

同期の日研生のみなさんです。とても懐かしいです。

また、このコロナ禍の下で、今まで体験したことのないことがたくさん出てくると思います。私自身も、ベトナム政府のコロナ感染症の水際対策のために、なかなか容易に帰省できない状況にあり、寂しい思いをしていますが、このご時世ですから仕方はないなあと思っています。みなさん、コロナに負けずに一緒に頑張りましょう。制限されることも多く、前のように自由にできないことも増えるだろうと思いますが、オンライン飲み会などでストレス解消してエネルギーいっぱいで毎日笑顔でありますように願っています。

■ 思い出のワンショット

共に一年間勉強した同期の日研生のみなさん

2020 年 12 月 9 日　日研生と関連教職員との初顔合わせ

2021 年 3 月 5 日　日研生研修旅行（他プログラムとの合同実施）

[編集後記] 2022 年 1 月 11 日

つくば市はスイスオリンピックチームのホストタウンであり、2021 年 7 月中旬から 8 月上旬において、筑波大学を拠点に、スイス選手団の事前合宿が実施されました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、残念ながら関連スタッフ以外の学生や地域住民は、スイス選手団との交流はできませんでした。修了生のみなさんは、コロナ禍が終息したら、交流を深めに、ぜひまたつくば、そして筑波大学に、最愛の人と一緒に遊びに来てください！

「日研生 E-だより」も第 16 号になりました。皆さんからのお便りをお待ちしております。

筑波大学　日本語・日本文化学類
HP　http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/
Twitter　@Nichinichi
Facebook　http://www.facebook.com/tsukuba.nichinichi

日本語・日本文化学類長室
nichi2_office@un.tsukuba.ac.jp
※メールアドレスが変更になった際にはお知らせください。